

# 児童文学の作家たち

未来に羽ばたいた『赤い鳥』



一冊の本が幼な心に強さと勇氣、やさしさと温かさを教えた。  
瀬戸内の児童文学の作家たちを訪ねよう。



鈴木 三重吉と広島

【広島県】

## 児童文学運動のパイオニア。

子どもたちの純粋な心を育みたい。児童文学の新しい扉を開いた鈴木三重吉はその一念だったのだろう。少年時代から盛んに少年雑誌に投稿した鈴木は、当時から高い作文能力の片鱗を見せ、9歳のときに亡くなった母の記憶を辿り、15歳で送った『亡母を慕ふ』は雑誌に掲載されている。

など抒情作品を書いている。卒業後は教師の職と並行し、創作活動が続けるが、34歳のときの長女誕生を契機に童話雑誌の創刊を構想する。子どもへの愛情、新たなジャンルへの挑戦が気持ちを駆り立てた。こうして、大正7（1918）年に発刊された『赤い鳥』は、森鷗外らの賛同を得て、芥川龍之介や菊池寛らも寄稿し、新たなうねりとなって広がっていく。投稿作品の中から坪田譲治や『こんぎつね』で有名な新美南吉など児童文学の新たな才能も現れ、『赤い鳥』は大きく羽ばたいていった。



鈴木自筆文、「赤い鳥」の題字を刻んだ文学碑は原爆ドームの前、相生橋東詰に建つ。

## 鈴木 三重吉 (すずき みえきち)

明治15(1882)年～昭和11(1936)年

本名同じ。広島市猿楽町(現中区紙屋町)生まれ。日本の児童文学運動の父。『赤い鳥』は不朽の功績を残し、多くの児童文学作家を育てた。

### 広島市立中央図書館



広島資料室内に、鈴木三重吉から阿川弘之までゆかりの作家たちを紹介する「広島文学資料室」がある。

広島市中区基町3-1 ☎082-222-5542  
9:00～19:00(土日は17:00まで)、月休

### 「鈴木三重吉作品を展示しています」

文学資料室では、「赤い鳥」の展示ほか、貴重な初版作品などをご見学ください。



学芸員 石田 浩子さん

### 読みたい一冊

古事記を子どもにもわかるよう楽しく物語風になっている。大正時代に書かれたがいまも色あせない。大人も十分楽しめる。PHP研究所。



広島市こども図書館の庭には記念碑「夢に乗る」がある。

広島市こども図書館  
広島市中区基町5-83

鈴木墓がある長遠寺は「文学と平和を伝える寺」として『赤い鳥』の会の事務局としても活動している。

無量山長遠寺  
広島市中区大手町3-10-6



鈴木三重吉生誕の地はエディオン広島本店前。

●鈴木三重吉写真は広島市立中央図書館提供

## ひと休みトーク Tabi no Bookmark

### 川から眺める広島のみち。

原爆ドームそばの元安棧橋から出航し本川、京橋川、猿猴川など市内を流れる川を回遊しながら、まち並みを観光できるいろいろなコースが楽しめる。

### ひろしまリパークルーズ

乗船場所/  
広島市中区大手町1-9  
☎082-258-3188。水休  
※コースによっては要予約

